

松山大学論集
第二十六卷第六号抜刷
平成二十七年二月発行

『外交時報』 総目次―戦後編 (五・完)

——一九九〇年一月第一二六四号―一九九八年九月第一三五一号——

伊 藤
藤 岡
信 鷹
哉 行

資料

『外交時報』総目次―戦後編（五・完）

——一九九〇年一月第二二六四号―一九九八年九月第二三五一号——

伊藤信哉
浜岡鷹行

第二二六四号 一九九〇年一月号

特集 ヤルタ体制以後

巻頭言 ヤルタからマルタへ〔池井優〕

ヨーロッパにおけるヤルタ体制の崩壊〔地引嘉博〕

政治改革とソ連の民族国家体制〔西村文夫〕

ココム、その設立の謎を解く〔安原洋子〕

ヤルタの拘束と限界（上）―米国の対日政策の底流〔坪内隆彦〕

自由論文コーナー

二―三

四―一九

二〇―三四

三五―四九

五一―六八

戦前期日米関係の一断面―陸軍のアメリカ国民性認識をめぐって〔黒沢文貴〕

六九一九〇

第一二六五号 一九九〇年二月号

特集 労働移民の史的教訓

巻頭言「チンク」と「ジャップ」〔池井優〕

二一三

移民と情報ネットワーク―日本からアメリカへの初期労働移民〔村山裕三〕

四一―一八

カナダの日系人―排斥から補償へ〔飯野正子〕

一九―四〇

日本とブラジルを結ぶ日系人移住者の八〇年〔三田千代子〕

四一―五六

一九二〇年代・日本の移民論（一）〔長谷川雄一〕

五七―六九

前号特集からの続き

ヤルタの拘束と限界（下）―米国の対日政策の底流〔坪内隆彦〕

七二―八八

自由論文コーナー

民間経済外交と日米関係―世紀転換期から満州事変まで〔木村昌人〕

八九―九九

第一二六六号 一九九〇年三月号

特集 日本の国際的責務

巻頭言 変化するODA〔池井優〕

二一三

日本の国際的責務〔宮本雄二〕

四一―一八

政府開発援助―業務の概要と諸問題について〔西端則夫〕

一九―三〇

国会から見た政府開発援助

ー参議院外交・総合安全保障に関する調査会報告を中心に〔高塚年明〕

ビナイン・ネグレクトの時代は終わった！〔佐々木實雄〕

日本の国際貢献能力ー防衛と経済協力をめぐって〔高杉忠明〕

自由論文コーナー

石橋湛山の軍備撤廃論（上）ーワシントン会議からロンドン会議まで〔増田弘〕

八二一〇一

第一二六七号 一九九〇年四月号

特集 ポスト冷戦下の欧州情勢

巻頭言「欧州の天地は複雑怪奇にして……」〔池井優〕

二一三

バルト三国自立問題にみる国際関係の変貌〔百瀬宏〕

四一六

ゴルバチョフの「欧州共通の家」構想〔小泉直美〕

一七三

北欧の非核兵器地帯協定政策ー国際政治変動の波間で〔大島美穂〕

三二四

現代フランスの安全保障政策ー歴史的概観〔服部一成〕

五〇六

自由論文コーナー

石橋湛山の軍備撤廃論（下）ーワシントン会議からロンドン会議まで〔増田弘〕

六一七

イスラム国家の国際法規範（上）〔古賀幸久〕

七二八

第一二六八号 一九九〇年五月号

特集 マルタ以後のアジア情勢

巻頭言 韓国・台湾の対共産圏外交の積極化〔池井優〕

マルタ会談後のアジア・太平洋における安全保障〔森本敏〕

東欧の変革と中国共産党―共産党政権の正統性と民族主義〔村井友秀〕

東欧の変化と朝鮮半島〔武貞秀士〕

ベトナム対外路線における「新思考」の萌芽〔小笠原高雪〕

自由論文コーナー

イスラム国家の国際法規範（下）〔古賀幸久〕

欧州における信頼醸成措置の発展（上）―ストックホルム文書を中心に〔浅田正彦〕

第一二六九号 一九九〇年六月号

特集 GATTと農産物

巻頭言 日本のガット加盟をめぐる米英〔池井優〕

わが国農産物輸入制限の法的検討―ガットとの関係を中心として〔松下満雄〕

ジレンマに立つガット農業交渉〔山地進〕

ウルグアイ・ラウンド農業交渉と米国のマルチ・チャネル・アプローチ〔明田ゆかり〕

食糧の安全保障〔廣瀬聖〕

自由論文コーナー

二―三

四―一四

一五―二八

二九―四二

四三―五三

五五―六六

六七―七六

二―三

四―一四

一五―三〇

三一―四四

四五―六一

欧州における信頼醸成措置の発展（下）―ストックホルム文書を中心に〔浅田正彦〕
中国の世界認識の変化の検証―天安門事件以来一年を中心に〔朱建榮〕

六三―七二
七三―八九

第一二七〇号 一九九〇年七月・八月合併号

特集 「ドイツ再統一問題」をめぐる諸相

巻頭言 マルクの時代は来るか〔池井優〕

二―三

ドイツ統一問題研究ノート〔高橋進〕

四―一六

ドイツ統一に対するソ連・東欧の態度〔地引嘉博〕

一七―三〇

「ヨーロッパの新しい秩序」とフランス〔渡邊啓貴〕

三一―四四

欧州統合における文化的側面の重要性

四六―六一

―欧州新秩序の基盤作りを目指すECの文化・教育政策〔小久保康之〕

自由論文コーナー

オーストラリア防衛外交政策と帝国内協議

―シンガポール基地戦略とオーストラリアの安全保障〔岡本哲明〕

六二―七七

アフガニスタン紛争とパキスタン（上）―紛争がパキスタンにもたらしたもの〔中野勝一〕

七八―八五

第一二七一号 一九九〇年九月号

特集 民族と国家

巻頭言 消された日の丸―ベルリンオリンピックと孫基禎〔池井優〕

二―三

東南アジアの中国人社会ーインドネシアの事例を中心に〔首藤もと子〕

四一―一九
二〇―三四

インティファダの発生とその展開

ー「パレスチナ国家（＝Two-state solution）」樹立への闘い〔永澤勲雄〕

三五―五二

アフリカの再生ー民族国家を超えて〔青木一能〕

五四―六七

自由論文コーナー

アフガニスタン紛争とパキスタン（下）ー紛争がパキスタンにもたらしたもの〔中野勝一〕

六八―七五
七六―九一

第一二七二号 一九九〇年一〇月号

特集 安全保障の新基軸

巻頭言 日本の安全保障はどうあるべきか〔池井優〕

二―三

変化しつつある国際環境下の安全保障〔森本敏〕

四―二〇

中東地域における安全保障状況〔杉之尾孝生〕

二一―三六

米国の大戦略と核戦略ー「冷戦後」への摸索〔梅本哲也〕

三七―五〇

大西洋同盟の将来ー変質する欧州安保の枠組み〔金子讓〕

五一―六四

緊急論説コーナー

「クウェート事変」と日本の対応〔本誌編集部（文責…五味俊樹）〕

六六―七一

本年二月号特集からの続き

一九二〇年代・日本の移民論(二)〔長谷川雄一〕

七二―八五

第一二七三号 一九九〇年一一・一二月合併号

特集 日米破局回避への道

巻頭言「日米未来戦論」からの反省〔池井優〕

二―三

日米関係―協力と対立の構図〔緒方貞子〕

四―一五

アメリカの対日通商政策の形成―日米構造問題協議をめぐる政治過程の分析〔小川敏子〕

一六―三四

日米構造協議と世界情勢の新展開―新段階に入った市場開放〔中北徹〕

三五―四六

戦後の米国日本研究への援助〔広田崇夫〕

四八―六五

外務省革新派の対米策〔戸部良一〕

六六―八〇

自由論文コーナー

激動する朝鮮半島の政治経済―最近の情勢と研究課題〔菊島啓〕

八一―九一

第一二七四号 一九九一年一月号

特集 新しい日欧関係を求めて

巻頭言「日英同盟、日独伊三国同盟、そして……」〔池井優〕

二―三

日本の安全保障に新視点を〔田久保忠衛〕

四―一三

ECにおける市場統合と政治統合〔澤田マルガレエテ〕

一四―一九

日本人のヨーロッパ像〔澤田昭夫〕

二〇―二五

日本とヨーロッパ・東南アジアからの文化的考察〔アリフィン・ベイ（河原匡見訳）〕

二六一―三八

国際社会における行為主体としての国際機構〔庄司克宏〕

三九―四七

新しい秩序を模索するヨーロッパ〔渡邊啓貴〕

四八―六〇

自由論文コーナー

天安門事件後の中台関係の変化〔孫琪剛〕

六二―七〇

サッダーム・フセインの統治体制とクウェート侵攻―「危機」の背景とイラクの今後〔宮田律〕

七一―八五

第一二七五号 一九九一年二月号

特集 世界新秩序のパラダイム

巻頭言 大国による国際秩序の崩壊〔池井優〕

二―三

湾岸戦争の構造―イラク・クウェート紛争の史的位相〔山下高明〕

四―一八

新国際秩序の形成とブッシュ政権の対応〔高松基之〕

一九―四〇

ソ連・中国を中心とする社会主義国の世界戦略―ポスト冷戦の視点から〔横手慎二〕

四一―五四

「冷戦の終焉」と米国の貿易統制〔安原洋子〕

五五―六九

アジア太平洋協力〔地引嘉博〕

七〇―八三

自由論文コーナー

犬養毅と辛亥革命（上）〔時任英人〕

八五―九三

第二二七六号 一九九一年三月号

特集 日ソ関係の「新思考」

巻頭言 日本対ソ・イメージと学術文化交流〔池井優〕

アジア太平洋地域の安全保障とソ連外交の新思考〔地引嘉博〕

一法学徒の見た北方領土問題〔白杵英一〕

日ソ経済協力の現状と展望〔横尾賢一郎〕

ソ連における「日本軍国主義」観—ブレジネフからゴルバチョフへ〔小澤治子〕

緊急論説コーナー

湾岸戦争後の国際秩序〔杉之尾孝生〕

自由論文コーナー

犬養毅と辛亥革命（下）〔時任英人〕

原子力平和利用提言とシカゴ冶金研究所—『ジェフリーズ報告』の再検討〔中沢志保〕

第二二七七号 一九九一年四月号

特集 国連の安全保障機能

巻頭言 国連二十五周年と世界青年会議〔池井優〕

国連の安全保障機能と日本の役割〔高須幸雄〕

冷戦後の安全保障体制と国連〔納家政嗣〕

安全保障機能の再吟味〔高井晉〕

二一三

四一一

一一二〇

二一一三四

三六一五三

五四一六一

六二一七九

八〇一九三

二一三

四一一〇

二一一三五

三六一四九

国連平和維持軍と国連「待機軍」制度―北歐国連待機軍の事例を中心として〔渡部茂己〕

五〇―六三

自由論文コーナー

ミ―チ湖憲法協定の流産―エスニツクな融和政策とカナダの現実〔石川一雄〕

六五―七九

日本の国際連盟脱退とシリアに於ける通商均等待遇問題（上）〔神山晃令〕

八〇―八六

第一二七八号 一九九一年五月号

特集 ミドル・パワーの外交態様

巻頭言 タイ―バンブー外交の実行〔池井優〕

二―三

イギリスの外交スタイル―「中級国家」の役割〔亀井紘〕

四―一八

ド・ゴール外交見直し論とミッテランの外交戦略〔臼井実穂子〕

一九―二九

「湾岸戦争」後とミドル・パワー〔編集部〕

二九―二九

戦後カナダ外交政策の理論的展開―ホーズの理論類型を中心に〔桜田大造〕

三〇―四五

欧州秩序再編における北欧地域協力―北欧会議の活動を中心として〔大島美穂〕

四六―六五

日本のパワーの活用〔編集部〕

六五―六五

自由論文コーナー

日本の国際連盟脱退とシリアに於ける通商均等待遇問題（下）〔神山晃令〕

六七―七六

対ソ関係への視座〔河原地英武〕

七七―八七

第一二七九号 一九九一年六月号

特集 自由貿易体制下の農業問題

巻頭言 米と日本人〔池井優〕

二一三

ガットと日本農業の自由化〔新井光吉〕

四一三

ガットの再生と農業問題

―ウルグアイ・ラウンド農業交渉における米国提案の役割を中心に〔明田ゆかり〕

二一三

ガット体制の中のEC共通農業政策〔渡邊頼純〕

三九五

ウルグアイ・ラウンド農業交渉とオーストラリア

―「政治的テコ」としてのケアンズ・グループ〔河原匡見〕

五五七

米韓の経済関係について―援助経済から農産物の市場開放要求まで〔菊島啓〕

七四九

昨年一〇月号特集からの続き

一九二〇年代・日本の移民論(三)〔長谷川雄一〕

九四一

第一二八〇号 一九九一年七月・八月合併号

特集 日本外交の可能性

巻頭言 日本は顔の無い巨人か〔池井優〕

二一三

日本外交の可能性―国際的貢献への要請と内政的拘束(上)〔蠟山道雄〕

四一六

わが国の海外広報の実態〔岡田真樹〕

一七二

東欧支援と日本―年表編〔高塚年明〕

三〇五

開発途上国に対する我国の技術協力 の現状〔佐々木弘世〕

「経済安全保障」再考―概念の整理と歴史的考察〔古城佳子〕

自由論文コーナー

サハラ以南アフリカ諸国における構造調整計画の諸問題〔小島さくら〕

八八一―一〇二

第二二八一号 一九九一年九月号

特集 世界経済をめぐる政治課題

巻頭言 日本はどこへ行く〔池井優〕

二―三

日本外交の可能性―国際的貢献への要請と内政的拘束（下）〔蠟山道雄〕

四―一六

国際協調の経済分析―覇権安定論とその周辺〔中島正人〕

一七―二九

パトリオットと第三次石油危機―第四次石油危機は来るか〔植村和志〕

三〇―四七

米加自由貿易協定と対米関係〔岩崎美紀子〕

四九―六二

日ソ経済関係の展望―期待される極東との経済交流〔横尾賢一郎〕

六三―七五

対ソ支援と日本―年表編〔高塚年明〕

七六―九六

第二二八二号 一九九一年一〇月号

特集 「湾岸戦争」後の安全保障情勢

巻頭言 日本の安全保障構想―社会党の場合〔池井優〕

二―三

日本の安全保障政策―一九九〇年代における主要課題〔森本敏〕

四―二八

- ソ連―東欧関係の再編―新たな安全保障の摸索〔六鹿茂夫〕
 二九―一五〇
- 湾岸危機とソ連の対欧州安全保障政策〔小泉直美〕
 五一―六五
- 「冷戦終焉」後における「欧州新秩序」の不安定性〔長島純〕
 六七―八四
- ソ連政変後の朝鮮半島情勢〔武貞秀士〕
 八五―九五

第二二八三号 一九九一年一・二二月合併号

特集 「パール・ハーバー」五十年目の教訓

巻頭言「アメリカにはパールハーバーの歴史はない」〔池井優〕

二―三

「真珠湾への道」再考〔波多野澄雄〕

四―二〇

日米戦争回避の可能性―木戸幸一・東条英機・及川古志郎〔三宅正樹〕

二一―三四

日米関係の社会的・文化的副産物

―第二次世界大戦と現代貿易摩擦下での日系アメリカ人の地位と意識〔竹沢泰子〕

三五―五一

ワシントンの街角から〔五味俊樹〕

五二―五六

自由論文コーナー

「拡大抑止」と在欧戦域核〔梅本哲也〕

五八―七四

日華通商航海条約（第三次）改訂交渉と日本外交―幣原外交と田中外交の条約論〔判澤純太〕

七五―九〇

第二二八四号 一九九二年一月号

特集 国際社会における「統合」と「分離」

巻頭言 民族の力は弾圧では消せない〔池井優〕

東欧における民族問題と地域統合〔地引嘉博〕

インド社会の深層と政治混乱―カースト対立と政略〔山下高明〕

ヨーロッパ再編とフランス〔臼井実稲子〕

バルト三国の諸問題〔志摩園子〕

自由論文コーナー

カーター政権の人権外交アプローチ〔小川敏子〕

朝鮮戦争時の特別掃海隊―海外派兵と政府・野党の対応〔平間洋一〕

第一二八五号 一九九二年二月号

特集 国連への期待と実態

巻頭言 国連の理想と現実〔池井優〕

国際連合と日本の役割〔臼井久和〕

国連の機能強化と旧敵国条項〔高井管〕

国連と専門機関相互の関係〔庄司真理子〕

南北問題への視座〔本誌編集部〕

国連の開発援助活動の現状と再編成の可能性〔山下也子〕

国連安全保障理事会における平和に対する脅威、平和の破壊、侵略行為の認定〔上〕

〔則武輝幸〕

二一三

四一七

一八一―三一

三二―四二

四三―五四

五六―八一

八二―八九

二一三

四一―三三

二四―三四

三五―四九

四九―四九

五〇―六五

六六―八二

国連の「国際世論」について〔本誌編集部〕

八二―八二

自由論文コーナー

近衛文麿の対米観―二度の訪米を中心として〔庄司潤一郎〕

八四―九九

第一二八六号 一九九二年三月号

特集 太平洋協力への展望

巻頭言 太平洋協力―大西洋か太平洋か〔池井優〕

二―三

東アジア経済会議構想を巡る国際関係―マハティール構想とアジア太平洋協力〔佐藤孝一〕

四―二一

変動期の東南アジアとASEAN〔須藤季夫〕

二二―三四

大東亜会議の継承〔本誌編集部〕

三四―三四

アジア太平洋協力とオーストラリア〔菊池努〕

三五―五三

アジア太平洋経済における日本の位置〔中島正人〕

五四―六六

前号特集からの続き

国連安全保障理事会における平和に対する脅威、平和の破壊、侵略行為の認定〔下〕

六七―八三

〔則武輝幸〕

自由論文コーナー

国際法における高度の自治権をもつ地域としての香港〔上〕

八五―一〇五

―その条約関係の移転を中心に〔王志安〕

第一二八七号 一九九二年四月号

特集 軍事力と経済力との関係

巻頭言 金解禁、ロンドン軍縮と浜口雄幸〔池井優〕

安全保障と経済の相関関係〔森本敏〕

冷戦後における米国の国防計画に思う〔本誌編集部〕

日米経済逆転下の国際秩序〔新井光吉〕

ソ連の崩壊と日ソ経済関係〔横尾賢一郎〕

冷戦後の国際秩序と欧州〔金子讓〕

自由論文コーナー

新冷戦下の日米防衛協力(上)―「大綱」路線から「ガイドライン」路線へ〔村田晃嗣〕

国際法における高度の自治権をもつ地域としての香港(下)

―その条約関係の移転を中心に〔王志安〕

第一二八八号 一九九二年五月号

特集 ソ連邦崩壊後の世界像

巻頭言 恐露・反ソ・親ロ〔池井優〕

ソ連崩壊後の東芝機械事件症候群〔安原洋子〕

CISの安全保障政策の形成〔中野潤三〕

ロシア連邦の対日政策―ゴルバチョフからエリツィンへ〔小澤治子〕

二一三

四一八

一八一八

一九一三六

三七一四八

四九一六四

六六一七二

七三一八八

二一三

四一七

一八一三三

三四一四九

冷戦以後の東アジア―対立と混迷の時代〔武貞秀士〕

自由論文コーナー

日本の国際連盟脱退とコンゴ盆地条約による通商均等待遇問題〔神山晃令〕

新冷戦下の日米防衛協力（下）―「大綱」路線から「ガイドライン」路線へ〔村田晃嗣〕

第二二八九号 一九九二年六月号

特集 「南」への視座

巻頭言 南北問題から南南問題へ〔池井優〕

進展する中南米経済再建と米国の新中南米支援政策―ポスト冷戦期の新潮流〔丸谷吉男〕

東南アジアにおける経済状況―高度成長を考える〔近藤正臣〕

サハラ以南アフリカ諸国における公企業改革の諸問題〔小島さくら〕

南アジアの変容―その政治経済学的一考察〔藤原直〕

自由論文コーナー

「天羽声明」の真相について〔天羽民雄〕

脱冷戦と文化交流（上）〔広田崇夫〕

第二二九〇号 一九九二年七月・八月合併号

特集 資本主義国間摩擦

巻頭言 日米対立の源流〔池井優〕

五〇―五九

六一―七三

七四―八四

二―三

四―二一

二二―三四

三五―四九

五〇―五九

六一―八三

八四―九一

二―三

経済制度の国際的ハーモナイゼイション

ー競争政策の国際的ハーモナイゼイションを中心に〔松下満雄〕

先進国間農業摩擦ー米欧および日米〔山地進〕

日米経済関係と今後の見通しーS I Iと日米のシステムの収斂の視点から〔横尾賢一郎〕

欧州経済統合と日・E C経済関係新時代〔東郷進〕

自由論文コーナー

米国の「戦後」統一朝鮮政府構想〔阪田恭代〕

脱冷戦と文化交流（下）〔広田崇夫〕

第一二九一号 一九九二年九月号

特集 現代世界における「国境」

巻頭言 国境からボーダーレスへ〔池井優〕

巨大帝国の崩壊と民族主義の行方〔蠟山道雄〕

カシミールをめぐる対立ー起源と現状〔山下高明〕

中国の国境政策と中印国境紛争〔村井友秀〕

ユーゴスラヴィア解体とバルカン地域〔柴宜弘〕

自由論文コーナー

欧州新秩序における「東欧」再編の行方〔広瀬佳一〕

南太平洋の安全保障と地域主義（上）〔植村秀樹〕

四一八

一九一三二

三三一四六

四七一六〇

六二一七四

七五一八一

二一三

四一五

一六一三〇

三一四一

四二一五三

五五一六八

六九一七八

第二二九二号 一九九二年一〇月号

特集 アメリカの国力診断

巻頭言 アメリカ・イズ・ナンバーワン?〔池井優〕

冷戦後における米国の国防戦略〔森本敏〕

アメリカ外交のゆくえ〔関場誓子〕

アメリカ経済は再生できるか〔新井光吉〕

戦略両用技術と米国の経済競争力問題〔村山裕三〕

自由論文コーナー

ヨーロッパ統合と“東欧”における地域協力の試み

―チエコ・スロヴァキアの視点から〔高橋和〕

南太平洋の安全保障と地域主義(下)〔植村秀樹〕

第二二九三号 一九九二年一・一二月合併号

特集 「国家主権」の行方

巻頭言 中国はどこへ行く〔池井優〕

民族と民族主義―歴史とその今日的意味〔蠟山道雄〕

英国から見たE.C.統合〔高岡望〕

フランス国民に問われた欧州統合〔白井実穂子〕

「国家主権」の行方―ドイツから見たヨーロッパ統合〔渡辺忠雄〕

二一三

四二〇

二一―三二

三三―四九

五〇―六六

六八―八四

八五―九三

二一三

四一―七

一八―三一

三二―四二

四三―六四

C S C Eプロセスと人権NGO〔吉川元〕

六五―一八〇

自由論文コーナー

新しい世界秩序と第三システム―国際政治学の新しいパラダイムについて〔田中宏明〕

八二―一九三

第一二九四号 一九九三年一月号

特集 転換期の外交戦略

巻頭言 中国の外交戦略のしたたかさ〔池井優〕

二―三

転換期における外交戦略〔地引嘉博〕

四―一七

「冷戦後」のアジア・太平洋と日本外交〔添谷芳秀〕

一八―三二

ロシア外交の基本路線とロシアのアジア政策〔中野潤三〕

三三―四四

一九九二年大統領選挙とアメリカ外交戦略のゆくえ〔高杉忠明〕

四五―五九

自由論文コーナー

条約共同体としての地域統合

―近世初期ヨーロッパの事例より〔ハラルド・クラインシュミット〕

六一―七五

エリヒュー・ルートと国際連盟(上)―二〇年代アメリカ孤立主義の二側面〔阿南東也〕

七六―八二

第一二九五号 一九九三年二月号

特集 北東アジアの新情勢

巻頭言 無視できない台湾の動向〔池井優〕

二―三

アジアの安全保障体制の枠組み〔納家政嗣〕
北東アジアとの民間経済交流〔横尾賢一郎〕

中国の対外政策とその周辺〔浅野亮〕

米国の冷戦後の東アジア戦略と米韓安全保障関係、一九九〇～九二年〔阪田恭代〕

朝鮮問題多国間協議論の現在―「朝鮮化」の力学と同心円の関係の形成〔倉田秀也〕

自由論文コーナー

エリヒュー・ルートと国際連盟（下）―二〇年代アメリカ孤立主義の一側面〔阿南東也〕

第一二九六号 一九九三年三月号

特集 冷戦後における軍備管理

巻頭言 ワシントン体制の教訓〔池井優〕

現時点における安全保障、軍備管理の諸問題〔八重樫永規〕

軍縮と国際連合〔高井晉〕

中国の武器輸出と現実主義外交〔村井友秀〕

中東の武器移転と政治の力学〔山下高明〕

冷戦後の通常兵器の移転―年表編〔高塚年明〕

自由論文コーナー

米連邦議会と安全保障（上）―一九九一年度国防予算審議と湾岸危機と政策〔和田修二〕

四一―一九

二〇―三四

三五―四九

五〇―六七

六八―八二

八四―九三

二―三

四―一二

一三―二六

二七―三五

三六―五〇

五一―六六

六八―八二

第一二九七号 一九九三年四月号

特集 紛争解決に向けての国連の役割

巻頭言 満州事変と連盟、湾岸戦争と国連〔池井優〕

冷戦後の地域紛争解決と国連の役割〔森本敏〕

紛争解決と平和維持における国連の新たな役割〔神余隆博〕

国連と地域的機構の関係〔庄司真理子〕

カンボジアにおけるPKO活動と日本〔清水潤〕

自由論文コーナー

欧州政治統合と欧州連合条約―マーストリヒト欧州理事会を中心として〔松隈潤〕

米連邦議会と安全保障（下）―一九九一年度国防予算審議と湾岸危機と政策〔和田修一〕

第一二九八号 一九九三年五月号

特集 民族、宗教をめぐる政治課題

巻頭言 政治と宗教―ロシア正教の場合〔池井優〕

インドの宗教問題―ヒンドゥー至上主義の高揚と揺らぐ世俗主義〔沼畑光毅〕

中東における民族・宗教問題―民族・原理主義・パレスチナを考える〔宮田律〕

旧ソビエト連邦の民族問題―独立国家共同体の行方〔高山英男〕

チェコスロヴァキア関係の過去、現在、未来―外交関係の始まりに際して〔佐藤雪野〕

自由論文コーナー

二一三

四一七

一八―三三

三四―五一

五二―七〇

七二―九一

九二―一〇三

二一三

四一六

一七―三三

三四―四九

五〇―六七

日米財界人会議―一九七―一九九一年〔増田弘〕

六九一九九

第一二九九号 一九九三年六月号

特集 低迷する世界経済と国際政治

巻頭言 不況と大学生〔池井優〕

二一三

ドイツ経済―欧州経済のエンジン？〔澤田マルガレーテ〕

四一―一八

米国経済と対外経済政策〔横尾賢一郎〕

一九―三〇

ロシアの経済情勢と国際社会への影響〔杉本侃〕

三一―四五

変貌する国際経済と東アジアの地域協力

―座礁する「内向的経済圏」と展開する華人ネットワーク〔佐藤考一〕

四六―六四

「強含みの中東石油市場―対イラン協調石油外交に走る？サウジアラビア」〔植村和志〕

六五―七九

自由論文コーナー

先進国首脳会議の二つの「政治化」〔高瀬淳一〕

八一―九三

第一三〇〇号 一九九三年七月・八月合併号

特集 ウルグアイ・ラウンドの行方

巻頭言 ケネディラウンド、東京ラウンド、ウルグアイラウンド〔池井優〕

二一三

ウルグワイ・ラウンドと日本〔松下満雄〕

四一―一六

フランスを中心とするヨーロッパの立場〔舟木良恵〕

一七―三一

ウルグアイ・ラウンド交渉と米国の課題〔明田ゆかり〕 三三―四八
 輸出、入国の均衡欠く農業交渉〔山地進〕 四九―六五

自由論文コーナー

イラク北東部におけるクルド難民問題〔落合雄彦〕 六六―八三
 アメリカ政治史の中の一九九二年―「政治潮流サイクル論」の再検討〔阿南東也〕 八四―九七

第一三〇一号 一九九三年九月号

特集 「民主化」後の旧ソ連・東欧情勢

巻頭言 ロシアジョークが消えた〔池井優〕 二―三

ロシアの体制移行の現段階〔小泉直美〕 四―一八

変革後の東欧情勢〔地引嘉博〕 一九―三二

独ボ関係の新たな構築―オーデル―ナイセ国境の確定をめぐる〔広瀬佳二〕 三三―四四

ユーゴスラヴィアの連邦解体―経過と現状〔石田信一〕 四五―五九

自由論文コーナー

米外交とグアムの政治的自立〔仲地清〕 六一―七五

パリ和平協定から総選挙迄のカンボジアの政治過程とUNTAC（一九九一―一九九三）

―地域紛争解決における国連の役割と限界〔土佐弘之〕 七六―一〇三

第一三〇二号 一九九三年一〇月号

特集 揺れるアジア・太平洋地域

巻頭言 日本のアジア・太平洋進出と歌謡曲〔池井優〕

アジア・太平洋の安全保障とその枠組み〔森本敏〕

中国の政治情勢〔渡辺英雄〕

モスクワと極東、アジア・太平洋―ロシアの対外政策路線の一考察〔小澤治子〕

冷戦終結後の朝鮮半島情勢〔武貞秀士〕

A S E A N 諸国における「脱権威主義」の展開

―タイとマレーシアの比較を中心に〔金子芳樹〕

自由論文コーナー

日本人の対外イメージについての一考察〔鈴木晟〕

第一三〇三号 一九九三年一・一二月合併号

特集 クリントン政権の対外政策

巻頭言 モース・ターゲット―クリントン政権のブレイン達〔池井優〕

クリントン政権の対外援助政策―国際開発金融機関に対する政策を中心として〔古城佳子〕

その二〇ヵ月後―問われるアメリカの役割〔関場誓子〕

クリントン政権の場当たりの外交の原因を探る〔高松基之〕

東アジアにおけるアメリカ

二一三

四二〇

二一三

三二一四七

四八―五九

六〇―七八

八〇―九三

二一三

四一―六

一七―二五

二六―三七

「複雑なバランスの役割を演じられるか?」〔ラリー・ニクシユ(村田晃嗣訳)〕
クリントノミクスの背景と現状〔山崎好裕〕

三八―五二
五三―七一

自由論文コーナー

「民主化」後のブルガリア―権利と自由のための運動を中心に〔木村真〕

七三―八七

第一三〇四号 一九九四年一月号

特集 世紀末の「世界地図」

巻頭言「世界地図」の中の日本〔池井優〕

二―三

ポスト冷戦期における世界経済の行方―新しい政治と経済の秩序を求めて〔香川敏幸〕

四―一八

混乱の中の統一ドイツとヨーロッパ〔三輪晴啓〕

一九―三一

覇権と成長センターの間〔納家政嗣〕

三二―四七

アジア・太平洋地域の将来―地域レベルでの交流の視点から〔藤原直〕

四八―五六

国連と世界の安全保障―「平和強制」をめぐる問題と平和維持活動の今後〔岡垣知子〕

五七―七三

自由論文コーナー

アメリカの軍事介入に対する国際的制約の一考察

七五―八七

―ヴェトナム戦争以降の文脈において〔宮坂直史〕

七五―八七

第一三〇五号 一九九四年二月号

特集 中東情勢の新段階

巻頭言 もうひとつのピンポン外交―イスラエルとパレスチナ〔池井優〕

中東和平のかぎ―シリア・イスラエル関係〔山下高明〕

「原則宣言」とパレスチナ問題の展開〔宮田律〕

パレスチナ和平進展と中東石油情勢

―第四次石油危機は遠のいたのか（サウジは大丈夫か）〔植村和志〕

イスラム原理主義運動とアメリカの中東政策〔波多野裕造〕

中東の軍事化とその要因〔木村修三〕

イスラエル占領地域の国際法上の地位〔荒木教夫〕

第一三〇六号 一九九四年三月号

特集 岐路に立つ国連

巻頭言 国連改革案の変遷〔池井優〕

国連事務総長報告『平和への課題』の理論的検討〔渡部茂〕

国連とソマリア内戦―「平和執行部隊」構想の挫折〔則武輝幸〕

国連の対ハイチ政策に関する一考察〔二宮正人〕

旧ユーゴスラヴィアにおける国連の活動〔滝澤美佐子〕

国際貢献に超党派外交を〔池田十吾〕

二―三

四―一七

一八―三二

三三―四六

四七―六二

六三―七三

七五―八九

二―三

四―一六

一七―四六

四七―五九

六〇―七五

七七―八七

第一三〇七号 一九九四年四月号

特集 地域広域圏がめざすもの

巻頭言 地域的統合の難しさ〔池井優〕

二一三

欧州の再編成と北欧諸国―北欧・EU関係の新展開を中心として〔吉武信彦〕

四二〇

NAFTAの紛争処理手続〔平寛〕

二一―三一

中南米における地域経済圏〔細野昭雄〕

三二―四六

APECにおける韓国の対応〔郷田正萬〕

四七―五九

ASEAN新展開の三局面―主体性・主導性の確保への試み〔玉木一徳〕

六〇―七〇

自由論文コーナー

戦中と戦後の間―カンボジアに於ける総選挙後の戦略〔村主道美〕

七二―九七

第一三〇八号 一九九四年五月号

特集 マーストリヒト条約以後のヨーロッパ

巻頭言 EUはどこへ行く〔池井優〕

二一三

ヨーロッパの再興〔金子讓〕

四一―九

欧州市民権の確立と欧州連合の行方―EU域内居住地参政権の獲得をめくって〔中曾根佐織〕

二〇―三三

旧東欧とEC、NATO―ハンガリー…民族問題の成長の中で〔羽場久泥子〕

三四―四九

マーストリヒト条約後のロシアの欧州外交―大欧州主義と大国主義の狭間で〔小泉直美〕

五〇―六三

冷戦の終焉と「中立」―変革期欧州におけるオーストリア外交〔蒲原正義・広瀬佳一〕

六四―七九

自由論文コーナー

ポール・ラインシユとトーマス・ベイティー一九一一年における接点〔篠原初枝〕

八一―九七

第一三〇九号 一九九四年六月号

特集 中国をめぐる国際関係

巻頭言 中国で留学ブームが去った〔池井優〕

二―三

中国の自信と不安―東アジアにおける超大国との重層的ネットワークの構築〔多賀秀敏〕

四―一七

中国共産党の戦争観と世界観〔村井友秀〕

一八―二五

クリントン政権の対中国経済政策と日本〔山崎好裕〕

二六―四二

中国の安全保障とアジア太平洋地域〔浅野亮〕

四三―五六

投稿 改革開放一五年と中国の社会変容―個人的観察〔林慧芳〕

五八―七三

自由論文コーナー

満洲国承認問題の一側面―満洲国の太平洋問題調査会参加問題をめぐって〔片桐庸夫〕

七四―八三

第一三一〇号 一九九四年七月・八月合併号

特集 冷戦後の核問題

巻頭言 沖繩返還と核〔池井優〕

二―三

座談会「冷戦後の核問題」〔中根猛・小川伸一・森本敏〕

四―二三

ロシアによる放射性廃棄物の海洋投棄〔天野之弥〕

二四―四二

冷戦後の北朝鮮の核開発問題〔武貞秀士〕

冷戦後における宇宙と核兵器の問題〔デイビット・ラドナー〕

旧ソ連諸国の核問題〔柳沢秀一〕

投稿 対米同盟と兵器開発―日英の戦闘機開発に見る教訓〔佐藤考一〕

自由論文コーナー

政治手段としての経済制裁―その目的と効用についての一考察〔石川恵美〕

九二―一一

第一三一―号 一九九四年九月号

特集 ウルグアイ・ラウンドからWTOへ

巻頭言 新東京ラウンドの可能性〔池井優〕

二―三

ウルグアイラウンドの政治過程〔鶴岡公二〕

四―一五

世界貿易機関（WTO）と日本の通商政策〔松下満雄〕

一六―三七

ガット農業交渉の結果と展望〔山地進〕

三八―五六

新サービス貿易協定と自由貿易原則―最恵国待遇原則、内国民待遇原則、相互主義〔間宮勇〕

五七―七一

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

（一）淵源―占領時代〔浅川公紀〕

七二―八六

自由論文コーナー

欧州における社会保障制度の見直し〔青木裕子〕

八八―一〇一

第一三二二号 一九九四年一〇月号

特集 ロシア問題再考

巻頭言 ロシア国民の考えていること〔池井優〕

二一三

帝国の崩壊―バルト三国のロシア人〔植田樹〕

四一―七七

ロシアの対中ならびに対朝鮮半島政策と武器輸出、核拡散問題〔斎藤元秀〕

一八―三六

ウクライナの対口政策〔末沢恵美〕

三七―五一

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

(二) サンフランシスコ講和を振り返る〔岩田修一郎〕

五二―六五

自由論文コーナー

冷戦後の世界をどう見るか―その一、国家中心的世界観〔加藤朗〕

六七―七九

民主体制と核問題―アルゼンチン・ブラジルの政策移行過程〔松下日奈子〕

八〇―九五

第一三二三号 一九九四年一一・一二月合併号

特集 デイレンマの中の日米関係

巻頭言 社会党の外交〔池井優〕

二一―三

転換期の日米同盟関係〔マイケル・J・グリーン〔川村晃一訳〕〕

四一―四四

クリントン政権の国家安全保障政策と対日政策〔高松基之〕

一五―二七

日米同盟と米韓同盟―比較の視座〔村田晃嗣〕

二八―四二

『無』のイデオロギー―日本人のアイデンティティー考〔玉本偉〔秋本富雄訳〕〕

四三―五八

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

(三) 「不平等」の構図―安全保障をめぐる日米関係〔波多野澄雄〕

五九―七三

自由論文コーナー

戦争報道に対する国際法的規制の史的展開〔斎藤洋〕

七五―九一

第一三一四号 一九九五年一月号

特集 「文明の衝突」と世界秩序

巻頭言 文明の衝突か調和か〔池井優〕

二―三

文明の衝突と国際秩序〔蠟山道雄〕

四―一九

「文明の衝突」か「文化の葛藤」か?〔鈴木董〕

二〇―二九

「文明の衝突」は新パラダイムか〔加藤朗〕

三〇―四一

歴史の中華帝国の拡大と縮小〔村井友秀〕

四二―五〇

多言語主義と言語ナショナリズム―EUと構成国の言語政策〔安江則子〕

五一―六三

寄稿

後退する米国の核抑止戦略と冷戦後の課題〔小河内敏朗〕

六四―七九

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

(四) 日米安全保障条約の改定〔池田十吾〕

八一―九五

第一三一五号 一九九五年二月号

特集 難民問題の展開とその対応

巻頭言 難民問題―日本の対応の難しさ〔池井優〕

Survival 誌特約 中国人国外流出の戦略的意味〔ポール・J・スミス（荒木教夫訳）〕

難民問題解決への国連のアプローチに関する一考察〔二宮止人〕

アメリカの難民問題への対応―軍事力の「非伝統的行使」とその意義〔宮坂直史〕

投稿 ルワンダの春―多元化の挫折と平和維持活動の瓦解〔村主道美〕

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

（五）再調整の時代―一九六〇年代〔大西貞雄〕

自由論文コーナー

信頼醸成措置に関する一考察〔吉高神明〕

第一三一六号 一九九五年三月号

特集 変動するアジア

巻頭言 脱亜論と大東合邦論〔池井優〕

「アジアの時代」を考える〔藤崎一郎〕

東アジアの国際システムとAPEC〔岩田修一郎〕

ポスト鄧小平時代の変動の可能性について〔石田収〕

ロシア（極東）と中国関係〔三井光夫〕

二一三

四一三五

二六一四一

四二一五六

五七―七二

七四―八七

八八―一〇七

二一三

四一―一三

一四―二六

二七―四一

四二―五六

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

(六) 対米全面依存時代の終焉〔斎藤元秀〕

五七―七九

自由論文コーナー

建国前夜の米中交渉〔興梠一郎〕

八一―九九

第一三一七号 一九九五年四月号

特集 環境と開発

巻頭言 環境と開発を「流行」に終わらせてはならない〔池井優〕

二―三

UNCEDフォローアップのための国際制度〔信夫隆司〕

四―一七

国連気候変動枠組み条約成立過程―国際政策課題の設定と条約交渉の背景〔太田宏〕

一八―三五

地球的規模の開発問題〔杉山肇〕

三六―五四

EC環境政策の変遷―「ECのなすべきこと」を求めて〔和達容子〕

五五―七一

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

(七) 一九八〇年代の防衛協力と通商摩擦〔樋口恒晴〕

七三―九一

自由論文コーナー

アメリカ議会・SDI・INF条約―国内政治制度と外交政策〔伊藤剛〕

九二―一〇六

第一三一八号 一九九五年五月号

特集 ヨーロッパの行方

巻頭言 国境が消えるー先取りしたサッカー界〔池井優〕

欧州議会の新しい機能〔藤川哲史〕

欧州連合（EU）の対中・東欧政策の現状ー第五次拡大に備えるEUの戦略〔小久保康之〕

欧州新秩序とフィンランド、スウェーデンーEU加盟と中立政策の変容〔吉武信彦〕

ノルウェーのEU加盟問題ー加盟拒否の背景〔吉武真理〕

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

（八）脱冷戦ー戦^{マヤ}日米摩擦の時代〔加藤朗〕

自由論文コーナー

東南アジアの安全保障と日本の貢献ーASEAN地域フォーラムの可能性〔佐藤孝一〕

第一三一九号 一九九五年六月号

特集 紛争解決へのプロセス

巻頭言 〃失言〃と外交的対応〔池井優〕

パレスチナ問題解決の政治的枠組み

ーキャンブ・デービット合意とオスロ合意の視点〔石田訓夫〕

エル・サルバドル紛争解決のプロセスー地域紛争解決モデル化の試み〔渡辺利夫〕

中米紛争解決へのプロセス〔狐崎知己〕

東ティモール問題解決へのアプローチ〔首藤もと子〕

NATO域外問題としてのボスニア紛争〔吉崎知典〕

二一三

四二一

二二一三六

三七一四七

四八一六三

六五一七九

八〇一九〇

二一三

四一四

一五一三一

三二一四五

四六一六〇

六一一七七

国連による紛争解決プロセスに関する一考察

ーグルジアニアブハジア紛争を事例として〔望月康恵〕

七八―九〇

連載投稿 戦後日米関係の軌跡

〔最終回〕 将来―二二世紀の日米同盟〔花井等〕

九二―一〇六

第一三二〇号 一九九五年七・八月合併号

特集 世界大戦終結五〇年

巻頭言 戦後五〇年―戦勝記念とロシア〔池井優〕

二―三

没落から再生へ―ヨーロッパの戦後五〇年〔石井修〕

四―一四

中欧の戦後処理〔広瀬佳一〕

一五―二七

「朕ハ茲ニ国体ヲ護持シ得テ」―「国体護持」とポツダム宣言〔波多野澄雄〕

二八―四三

大東亜戦争と支那事変〔戸部良一〕

四四―五八

日米開戦―政治心理学的視角からの一考察〔塚原光良〕

五九―七〇

自由論文コーナー

ソ連邦崩壊と北方領土問題の多元化〔兵頭慎治〕

七二―八五

第一三二一号 一九九五年九月号

特集 戦後世界経済システムの曲がり角

巻頭言 社会主義市場経済の弊害〔池井優〕

一一―三

- 漂流する先進国経済と国際経済システムの構築〔塚本俊造〕 四一―二六
 戦後国際経済体制の変容と『埋め込まれた自由主義』〔古城佳子〕 二七―三七
 戦後国際経済とアメリカ対外経済政策の転換〔山崎好裕〕 三八―四九
 EU通貨統合 五〇―六三

- ―冷戦構造あるいは米ソ覇権構造の生成と崩壊がもたらしたインパクト〔藤原洋二〕 六四―七四
 田の国際化と対日直接投資〔経団連国際経済部 田高研究会〕 七六―八八

自由論文コーナー

- 冷戦後の世界をどう見るか―その二、多元的世界観〔加藤朗〕 二―一三

第一三二二号 一九九五年一〇月号

特集 カオス的狀況への対応

- 巻頭言 海外誘拐事件と日本の危機管理〔池井優〕 四―三一
 五カ国防衛取極の今日的意義〔佐島直子〕 三二―六〇
 変りゆく役割―東アジアの安全保障における中国と米国〔呉心伯〔芹澤清訳〕〕 六一―七七
 ペルシヤ湾の覇者めざすイラン〔山下高明〕 七九―九五
 欧州軍団 その形成過程と展望 九六―一〇七
 ―ポスト冷戦のヨーロッパ防衛をめぐる論議を中心に〔成澤宗男〕
 問われる日本の危機管理―防災行政を中心にして〔川野秀之〕

第一三二二三号 一九九五年一一・一二月合併号

特集 アメリカとアジアとの関係

巻頭言 アメリカとアジア―門戸開放宣言からニクソンドクトリンまで〔池井優〕

冷戦後の日米安保条約体制とその再定義〔高杉忠明〕

米国と朝鮮半島―変化と持続〔武貞秀士〕

米中関係と中国の内政〔浅野亮〕

米越関係正常化の戦略的意味―歴史的考察〔小笠原高雪〕

アメリカ合衆国のアジア太平洋政策とASEAN―会議外交をめぐる摩擦と共存〔佐藤考一〕

冷戦後の米・インド関係〔サトウ・リメイエ（佐藤治子訳）〕

第一三二四号 一九九六年一月号

特集 ポスト・戦後五〇年の世界的課題

巻頭言 日米安保は必要か―ジョンソン・ナイ論争〔池井優〕

中東欧に対する経済技術協力〔地引嘉博〕

冷戦後の国際経済支援の枠組み―共有価値と日本の貢献〔稲田十一〕

ポスト・戦後五〇年の世界的課題―多元的世界をめざして〔加藤朗〕

冷戦後の国際関係とポスト・「戦後」五〇年の世界的課題〔太田宏〕

第九条と平和維持活動―柔軟解釈の限界〔石河まさみ（秋本富雄訳）〕

自由論文コーナー

二一三

四一五

一六一二七

二八一四三

四四一五六

五七一七四

七五一八五

二一三

四一八

一九一三一

三二一四七

四八一六五

六六一七九

第一次世界大戦後のイギリスの軍備政策についての一考察〔堀内直哉〕

八一―一九六

第一三二五号 一九九六年二月号

特集 多角間関係の諸相

巻頭言 多角的関係を摸索する台湾〔池井優〕

二―三

国際秩序の変容と多角間関係の展開―ヨーロッパの安全保障問題を中心に〔金子讓〕

四―一九

EU統合の裏と表〔青木裕子〕

二〇―三四

バルト三国を中心とする地域協力〔志摩園子〕

三五―四五

図們江地域開発計画の推移と東北アジアの地域間関係〔榎谷圭司〕

四六―五七

自由論文コーナー

「一九四〇年体制」とリーダーシップ―「昭和」再考〔黒沢文貴〕

五八―七九

アメリカ外交におけるSEATO設立の意義〔佐藤真千子〕

八〇―一〇四

第一三二六号 一九九六年三月号

特集 東アジアにおける「暗雲」

巻頭言 中国、北朝鮮は東アジアの暗雲か〔池井優〕

二―三

東アジアの武器移転〔村井友秀〕

四―一四

中国の軍事近代化とその波紋―「中国脅威論」の意味するもの〔阿部純一〕

一五―三四

中国経済の実相―中国は東アジアの「暗雲」となるか〔青山周〕

三五―五〇

中国大国化の世界史的意味と日本外交〔添谷芳秀〕

日米韓安全保障関係の問題点〔村田晃嗣〕

自由論文コーナー

A S E A Nをめぐる地域経済秩序形成の新展開〔金子芳樹〕

第一三二七号 一九九六年四月号

特集 問われる国連の「器量」

巻頭言 日本の国連イメージ〔池井優〕

武力の行使と国連P K O〔高井晉〕

米国の国連政策―そのレトリックと行動〔星野俊也〕

安全保障理事会特設法廷の基本理念と戦犯裁判の実状〔小長谷和高〕

人道的救援と国連〔庄司真理子〕

ゆらぐ公海漁業の自由―「公海漁業実施協定」までの道程とその評価〔都留康子〕

中絶問題と米中関係―国連人口基金をめぐる政治過程〔東郷育子〕

第一三二八号 一九九六年五月号

特集 旧共産圏のその後

巻頭言 ガラスの金メダル〔池井優〕

八九年変革後のバルカン情勢〔地引嘉博〕

五一―五九

六〇―六八

七〇―九三

二―三

四―一七

一八―三〇

三一―四五

四六―六一

六三―八三

八四―一〇二

二―三

四―一七

ロシアのC I S統合政策〔松井弘明〕

中央アジア独立共和国と言語問題〔野田岳人〕

どこまで進んだ「移行」過程―ポーランドの場合〔水谷驥〕

チェコとスロヴァキアの現状―OECD（経済協力開発機構）〔佐藤雪野〕

自由論文コーナー

劉少奇と毛沢東（上）―劉の対毛「独立性」に関する初歩的検討〔諏訪一幸〕

一九九五年における米国エネルギー省（DOE）廃止問題の動向〔佐藤竜太〕

第一三二九号 一九九六年六月号

特集 自由化の嵐と国民経済の寿命

巻頭言 インド総選挙の教訓―経済改革の重いひずみ〔池井優〕

国民経済は消滅するのか―理論と政策のあいだ〔山崎好裕〕

クリントン政権における対外経済政策の変容―「自由化志向性重商主義」〔飯倉章〕

世界から取り残される日本の金融産業〔糸瀬茂〕

日本経済システムの転換とそのインプリケーション

―日米経済関係を中心として〔横尾賢一郎〕

グローバル化の進展とEU統合発展過程〔酒井博司・青木裕子〕

自由論文コーナー

劉少奇と毛沢東（下）―劉の対毛「独立性」に関する初歩的検討〔諏訪一幸〕

一八一―二九

三〇―四二

四三―五七

五八―六九

七一―八五

八六一―一〇一

二―三

四―一八

一九―三七

三八―五〇

五一―六三

六五―八二

八三一―一一

第一三三〇号 一九九六年七・八月合併号

特集 冷戦後の軍事力問題

巻頭言 軍事と安全保障教育の必要性〔池井優〕

冷戦後の軍事力―試論〔今井隆吉〕

湾岸戦争後の中東軍事情勢と核拡散〔山下高明〕

クリントン政権の平和活動―軽武器拡散と武装解除〔宮坂直史〕

防衛計画大綱と冷戦後の防衛力整備〔櫻井敏雄〕

自由論文コーナー

集団的自衛権に関する政府解釈の形成と展開（上）サンフランシスコ講和から湾岸戦争まで

〔阪口規純〕

第一三三一号 一九九六年九月号

特集 WTOの実情と展望

巻頭言 WTOは中国を加盟させるべきか〔池井優〕

WTOの現状と課題〔松下満雄〕

WTOの本格始動と米国の通商政策〔坂本俊造〕

EUの通商戦略とWTOへの対応〔白井陽一郎〕

ASEANの通商戦略と地域秩序構想

―相互に補完するリージョナリズムとグローバルリズム〔菊池努〕

二一三

四一二一

二二一三七

三八一五五

五六一六八

七〇一九八

二一三

四一五

一六一三四

三五一五〇

五一一六六

中国・台湾のWTO加盟について〔青山周〕

六八―七八

自由論文コーナー

集団的自衛権に関する政府解釈の形成と展開（下）サンフランシスコ講和から湾岸戦争まで

〔阪口規純〕

七九―九九

第一三三二号 一九九六年一〇月号

特集 情報から見た国際関係

巻頭言 情報でも勝った日露戦争・情報でも負けた日ソ国交回復交渉〔池井優〕

二―三

情報化と世界経済のヘゲモニー〔佐々木實雄〕

四―一四

発展するアジアのテレビ・コミュニケーション

一五―二九

―その状況と（日本からみた）問題点〔川竹和夫〕

三〇―四一

― the right of access の適用可能性を中心として〔斎藤洋〕

インターネットによる情報の流通と国際法の課題

四二―五五

―とくにわいせつ情報規制について〔二戸信哉〕

五六―七七

海外人質事件とアメリカ国内政治―テロリズムの比較研究に向けて〔宮坂直史〕

七九―九九

二十一世紀を迎える日本の対外政策―総括と展望〔V・キスターノフ（大崎平八郎監訳）〕

第一三三三号 一九九六年一一・一二月合併号

特集 世界の流動化と制度化

巻頭言 存続するNATO、解体したSEATO〔池井優〕

インドのCTBT拒否と南アジアの軍事環境〔山下高明〕

ネタニヤフ政権誕生後の中東の「不安定」諸要因の分析〔宮田律〕

返還過渡期香港の政治変動〔石川恵美〕

何故、協定は結ばれたか？―豪州・インドネシア安保協定成立までの軌跡〔佐島直子〕

EU政府間会議と欧州人権条約加入問題―欧州司法裁判所意見の意義〔庄司克宏〕

欧州兵器協力における制度化と流動化〔臼井実穂子〕

第一三三四号 一九九七年一月号

特集 二十一世紀に向けてのコモン・アジェンダ

巻頭言 十九世紀、二十世紀、そして二十一世紀〔池井優〕

世界共通の政策課題としてのグローバルな問題〔太田宏〕

冷戦後の国連の平和維持活動と今後の問題点

―内戦終了後の国内改革・軍縮と戦闘員の社会復帰〔打村晋三〕

地球温暖化―その科学、経済および政治〔細野豊樹〕

情報化時代の国際世論〔林法隆〕

アジアの経済成長が生む危機―世界の食糧・人口問題と中国〔駒形哲哉〕

二一三

四一八

一九一三三

三四一四九

五〇一七八

八〇一九二

九三一一〇一

二一三

四二二四

二五一三五

三六一五〇

五一一六二

六四一八一

世紀末における国際政治理論の状況〔石川卓〕

八二一九七

第一三三五号 一九九七年二月号

特集 一九九六年大統領選挙後のアメリカ

巻頭言 『NO』と言える中国』『NO』と言える日本』とアメリカ〔池井優〕

二一三

二十一世紀のコモン・アジェンダ〔鶴岡公二〕

四一一二

クリントン外交四年間の足跡と展望〔関場誓子〕

一三一二二

アメリカの中国政策を展望する〔湯浅成大〕

一三三三四

米韓同盟の摩擦―一九六八年と一九九六年〔村田晃嗣〕

三五一四一

クリントンノミクスの成果と課題〔山崎好裕〕

四二一六〇

自由論文コーナー

日露戦争中の露仏諜報協力―対日情報収集をめぐる〔稲葉千晴〕

六二一八三

第一三三六号 一九九七年三月号

特集 国際機関の光と影

巻頭言 日本国際連盟協会―その光と影〔池井優〕

二一三

安全保障概念の変化と現代PKO〔高井晉〕

四一三八

地球環境保全のための資金提供制度

― Global Environment Facility (GEF) を中心として〔信夫隆司〕

一九一三八

核兵器による威嚇または核兵器の使用の合法性に関する

国際司法裁判所の勧告的意見〔則武輝幸〕

三九―五五

欧州統合の加速化と国際統合理論〔若林広〕

五六―六九

冷戦期国際人権レジームと国家の相克―CSCEプロセスとフランス外交〔宮脇昇〕

七〇―八七

自由論文コーナー

「田中外交」への一視角〔富田圭一郎〕

八九―一〇二

第一三三七号 一九九七年四月号

特集 自由化の流れとラテン・アメリカ

巻頭言 ラテンアメリカに明るい希望が持てるか〔池井優〕

二―三

経済的自由主義と政治的民主主義の共存?―世紀末ラテンアメリカの一断面

―チリとアルゼンチンの事例をてがかりとして〔松下洋〕

四―一八

中南米における地域統合〔細野昭雄〕

一九―三八

セデージョ政権とメキシコ政治・経済の現状〔岸川毅〕

三九―五〇

第二次フジモリ政権の政治的課題〔村上勇介〕

五一―六六

中米諸国における紛争安定と新自由主義的経済政策

―エル・サルヴァドル、ニカラグアの事例を中心に〔櫻井真由美〕

六七―八一

自由論文コーナー

「親英米派」の国際関係観―西園寺公望と阪谷芳郎、吉田茂をつうじて〔小池聖一〕

八三―九三

第一三三八号 一九九七年五月号

特集 ロシアをめぐる諸情勢

巻頭言 絶望的なロシア経済〔池井優〕

二一三

ロシアの内政―大統領府とチュバイス〔角田安正〕

四一六

ロシア連邦構成主体の対外関係―現状と展望〔坂口賀朗〕

一七―三〇

ロシアとバルカン諸国〔地引嘉博〕

三一―四四

冷戦崩壊期米国のソ連・ロシア金融支援から見たG7政策〔吉村勝彦〕

四五―五九

バルト三国の地域協力と外交政策―対EU及び対ロシアの関係から〔志摩園子〕

六〇―七三

自由論文コーナー

ASEANの三〇年―会議外交を中心とする一つの解釈〔佐藤考一〕

七五―九七

第一三三九号 一九九七年六月号

特集 香港返還後の東アジア

巻頭言 香港返還後の東アジアの安全保障―台湾の見方〔池井優〕

二―三

日本外交と中国〔宮本雄二〕

四―一三

中台関係―逆境に立つ台湾の「現実外交」〔阿部純一〕

一四―三〇

九〇年代日中関係の展望〔中居良文〕

三一―四八

返還後香港の未来像〔石川恵美〕

四九―六一

中国における少数民族問題の行方―新疆ウイグル自治区を中心に〔柴田孝〕

六三―七五

変わる中国、変わらない中国〔青山周〕

七六一―七七

第一三四〇号 一九九七年七月・八月合併号

特集 安全保障の新しい展開

巻頭言 中国の考える安全保障―台湾の見方〔池井優〕

二―三

求められる新たな安全保障観〔加藤朗〕

四―一七

日本および朝鮮半島の非核地帯化〔小川伸一〕

一八―三三

武器輸出三原則―その背景と課題〔相原三起子〕

三四―五一

脱冷戦期における米国軍事の情報革命―国防情報基盤整備とその政策決定過程〔山本元〕

五二―六七

ヨーロッパは新たな世紀の安全保障モデルとなるか

―相互不信と規範構築をつなぐOSCEプロセス〔坪内淳〕

六九―八六

自由論文コーナー

戦後初期におけるイギリスの核政策―アトリー―労働党政権と原子力国際管理〔永野隆行〕

八七―一〇一

第一三四一号 一九九七年九月号

特集 国際協力のレジーム形成

巻頭言 国際協力学科創設―常磐大学の試み〔池井優〕

二―三

グローバル・ガバナンス論について〔大芝亮〕

四―一二

ワシントン・コンセンサスvs.日本型アプローチ

―国際開発のパラダイム論争と日本の知的貢献〔稲田十一〕
 世界銀行の体制移行〔武内憲治〕
 三〇―四四

NGOのガバナンス

―UNCED・CSDDプロセスにおけるNGOのネットワーク形成〔毛利聡子〕
 四五―六〇
 地球温暖化問題をめぐる多国間協力―レジーム形成の視角からの考察〔横田匡紀〕
 六一―八〇

自由論文コーナー

ボスニア平和履行軍派遣決定とアメリカ議会（上）

―ポスト冷戦期アメリカの対外政策決定過程の諸問題〔阿南東也〕
 八二―一〇五

第一三四二号 一九九七年一〇月号

特集 カンボジア情勢の読み方

巻頭言 カンボジア和平と日本外交〔池井優〕
 二―三

カンボジア「政変」の分析視角―権力闘争と国際力学〔竹田いさみ〕
 四―一六

カンボジア「政変」の背景と原因〔鶴田亀良〕
 一七―三四

政治的緊張が続くカンボジア情勢〔山岡邦彦〕
 三五―四六

カンボジア国際法廷―その可能性と問題点〔坂口智〕
 四七―六一

自由論文コーナー

サンフランシスコ講和条約と領土問題（上）―条約の完成から調印まで〔梶浦篤〕
 六三―七一

一九五〇年代前半における東南アジア国際関係とイギリスの関与〔永野隆行〕
 七二―九三

第一三四三号 一九九七年一一・一二月合併号

特集 エネルギー、環境、そして国際政治

巻頭言 文化遺産・自然遺産の保護〔池井優〕

二一三

地球温暖化をめぐる国際政治経済―「国連気候変動枠組み条約」議定書交渉の背景〔太田宏〕

四一三三

アジア・エネルギー拡大協力の諸課題―ロシア参入の課題〔末次克彦〕

三四一五〇

EUにおける地球温暖化対策〔中島正人〕

五一―六三

湾岸戦争後の中東石油情勢―サウジアラビアは大丈夫か〔植村和志〕

六四―八四

自由論文コーナー

ボスニア平和履行軍派遣決定とアメリカ議会（下）

八五―九七

―ポスト冷戦期アメリカの対外政策決定過程の諸問題〔阿南東也〕

九九―一〇八

サンフランシスコ講和条約と領土問題（下）―条約の完成から調印まで〔梶浦篤〕

一〇九―一二五

ジョン・アリソンと日本再軍備―一九五二―一九五三年〔池田慎太郎〕

一〇九―一二五

第一三四四号 一九九八年一月号

特集 アジア時代の到来!?

巻頭言 日本はアジアの反面教師か〔池井優〕

二一三

アジアの安全保障と日中関係〔村井友秀〕

四一―一九

これからの朝鮮半島はどうなるか〔武貞秀士〕

二〇―三二

アジア経済の潮流〔青山周・太田誠〕

三三―四七

- 中東とアジア―ユーラシアを跨ぐ実利主義による協調〔宮田律〕 四八―六一
 東南アジアにおける国民の多元化と開発体制の動揺〔金子芳樹〕 六二―七五
 歴史の流れで見る二十一世紀のアジア〔前田正裕〕 七六―九〇

自由論文コーナー

- 東アジアにおける信頼醸成措置―日本の防衛交流・安保対話に関する一考察〔塚本勝也〕 九二―一〇五

第一三四五号 一九九八年二月号

特集 近・現代の日本外交と世界〔創刊一〇〇周年記念号〕

- 巻頭言『外交時報』一〇〇年〔池井優〕 二―三

座談会「現代の世界情勢」

- 〔蠟山道雄・孫崎亨・猪口孝・山本武彦・竹田いさみ・山岡邦彦・五味俊樹〕 四―四一

- 戦前期日本外交の論点―第一次世界大戦期まで〔大畑篤四郎〕 四二―五四

- 両大戦間期の体制変動と日本外交〔黒沢文貴〕 五五―六六

- 「負の遺産」の克服―戦争の伝承ということ〔波多野澄雄〕 六七―七七

- 戦後日本外交五二年の軌跡〔添谷芳秀〕 七九―九三

自由論文コーナー

- 災害時の国際緊急援助受入における日本の外交態度―関東大震災の場合〔飯森明子〕 九四―一一四

第一三四六号 一九九八年三月号

特集 EUを通じてのヨーロッパ

巻頭言 期待される欧州通貨ユーロ〔池井優〕

二一三

アムステルダム条約とEUの多段階統合―「緊密化協力」（柔軟性）条項の意義〔庄司克宏〕

四一七

EUの東方拡大と「アジェンダ二〇〇〇」〔小久保康之〕

一八一三三

NATOの東方拡大―新しい、ダイナミックな「可変翼」NATOへ〔小林正英〕

三四一五〇

中・東欧諸国の経済体制移行〔東野篤子〕

五一―六七

EU通貨統合のマクロ経済的限界〔藤原洋二〕

六八一七八

自由論文コーナー

カナダ外交における「機能主義」再考―国際環境と国家の自立性の観点から〔岡垣知子〕

八〇一―一〇二

第一三四七号 一九九八年四月号

特集 「ニューガイドライン」とアジア

巻頭言 ガイドラインとアジア諸国〔池井優〕

二一三

新ガイドラインと日本の立場〔山岡邦彦〕

四一―五

ガイドライン前後の日米関係と中国〔関場誓子〕

一六一―二九

東アジアの安全保障秩序をめぐる日米中関係

―日米「新ガイドライン」と中国の対応〔阿部純一〕

三〇―四六

日米安全保障関係における〈朝鮮半島要因〉―新ガイド・ラインの策定によせて〔村田晃嗣〕

四七一―六二

新ガイド・ラインとアジア諸国〔鶴田亀良〕

六三一―八〇

自由論文コーナー

ミッテラン仏政権下の核政策〔久迩良子〕

八二―九五

第一三四八号 一九九八年五月号

特集 変わるロシア・変わらぬロシア

巻頭言 変わるロシア・変わらないロシア―ロシアジョークから〔池井優〕

二―三

日本に接近するロシア〔斎藤元秀〕

四―一九

ロフリン・ロシア国家院国防委員長と「軍擁護運動」〔角田安正〕

二〇―三三

クリミアの分離主義運動〔末澤恵美〕

三四―四八

ロシア国家のオリエンテーションとアジア太平洋〔中野潤三〕

四九―五九

日ロ経済関係の過去、現在、未来―民間経済交流からの一考察〔横尾賢一郎〕

六一―七五

自由論文コーナー

第一次世界大戦が育んだEUの源流〔染木布充〕

七六―九三

第一三四九号 一九九八年六月号

特集 トランスガバメンタリズムの視点

巻頭言 ボーダーレス時代の犯罪とその対応〔池井優〕

二―三

国際テロリズムとトランス・ガバメンタリズム〔宮坂直史〕

四―二〇

刑事司法分野における国家の協調―国際的実施方式のもう一つの試み〔滝澤美佐子〕
 ルワンダ国際刑事裁判所―管轄権に関する若干の考察〔小長谷和高〕

IMFの今日的機能と問題点〔古城佳子〕

アジア通貨・金融危機と国際政策協調〔伊藤さゆり〕

自由論文コーナー

新しい日韓漁業協定の締結に向けて―国際海洋法の枠組みの変化〔武山眞行〕

第一三五〇号 一九九八年七・八月合併号

特集 ユーラシアをめぐる地政戦略

巻頭言 地政学上のユーラシア〔池井優〕

ユーラシア戦略外交と基層構造〔納家政嗣〕

旧ソ連・イスラム系諸国の可能性―「広域中東圏」からの分析視点〔宮田律〕

中国の西方進出と中央アジア〔村井友秀〕

アメリカのグランドデザインとNATO拡大問題

―「ユーラシア・チェスボード論」を手がかりに〔阿南東也〕

冷戦後の国際秩序とユーラシアを巡る地政戦略―米国のNATO拡大政策を中心に〔金子讓〕

自由論文コーナー

知的所有権分野における米国の戦略とスペシャル三〇一条

―対ブラジル経済制裁事例を中心に〔松本光浩・子安昭子〕

二一―三九

四〇―五六

五七―六八

七〇―八三

八四―九五

二一三

四一―一九

二〇―三四

三五―四五

四六―六四

六六―八一

八二―九七

第一三五一号 一九九八年九月号

特集 ODA、環境、そして人権

巻頭言 ODA、環境、人権―中国の場合〔池井優〕

二―三

民主化への介入?―「ガバナンス」についての国際的議論と日本の対応〔稲田十二〕

四―一七

現場から見たODA評価〔山本愛一郎〕

一八―二九

現代アメリカのODA政策―変容と現状〔滝田賢治〕

三〇―四六

グローバル・ガヴァナンス論の過去と「現在」

四七―六〇

自由論文コーナー

日米開戦の国際政治理論―現代の国際関係に問いかけるもの〔野口和彦〕

六二―七九

国際関係論における三つの伝統―英米の国際政治理論の現在〔鈴木陽一〕

八一―九六

休刊措置へのお詫びと発行人への感謝〔五味俊樹〕

九七―九七